

| | | | |
|-------|--|-------|-------|
| クラス番号 | 625 | 担当教員名 | 金山 正美 |
| テーマ | 障がい者の施設生活支援と地域生活支援について考える | | |
| 著書・論文 | 【著書】加藤幸雄、小椋喜一郎、柿本誠、笛木俊一、牧洋子編『相談援助実習』（2010）中央法規 分担執筆 | | |
| 研究課題等 | 【研究課題】障がい者の地域生活支援の課題と地域生活の構築 | | |

ゼミナール概要

キーワード：時間と空間、生活構造、利用者主体、権利擁護

目的と内容：私は、以前、身体障がい者の生活施設で介護や相談の仕事に携わってきました。また、地域生活を支援する部署にいたこともあります。ゼミのテーマである「障がい者の施設生活支援と地域生活支援について考える」は、そのような背景が関係しています。

現在は、地域生活支援の部署で仕事をしていた時に出会った高次脳機能障がい者の支援に携わっています。皆さんには、聞き慣れない障がい名だと思います。この障がいは、主に交通事故の後遺症として、記憶障がい、注意障がい、遂行機能障がいなど、認知に関するものと社会的行動障がいに伴うものがあります。日常生活動作の障がいとは異なり、身体に障がいがなくとも社会環境とかかわり方に問題が現れる特徴があります。従って、身体的な障がいも回復しても、認知障がいによって記憶の出し入れが困難になり、複雑な仕事を求められる元の職場に復帰できなかつたり、外からは分かりづらいため、周りの人たちとのトラブルが起こります。

また、私が勤めていた生活施設から自立生活を目指して退所し、地域で自立支援法を利用して生活をしている重度肢体不自由者がいます。その人の暮らしからは、重度訪問介護のヘルパーの支援を受けながら、利用者が主体となるためには数々の苦労があることが伝わってきます。

さて、ゼミのテーマである「障がい者の施設生活支援と地域生活支援について考える」では、ミクロの視点として、生活構造に視点をおくことが考えられます。施設生活では、生活を取り巻く環境は、どの利用者に対しても時間によって決められた日課があり、居室という空間でくくられ標準化されています。一方、地域生活においては、時間や空間の制約はなくなりますが、制度や政策のマクロの問題として、認知に関する障がいや重度の肢体不自由者は、自ら重要書類の整理や金銭の保管はしづらいため、権利擁護に関する支援の必要性が高まります。

どちらの場合でも、支援技術としては、ケアワークとソーシャルワークが関連し合いながら行われます。その役割は地域生活支援ではヘルパーが負うところが大きいと思われます。家事援助や身体介護を通してクライアントの生きがいや社会参加といった支援を継続的に行うには、ヘルパーの気づきが重要だからです。

従って、私のゼミでは、施設生活や地域生活を支援していく上で、生活構造を捉えながら、支援の構築や課題を明らかにすることが目的となります。

最後に、研究テーマは、障がい者福祉に軸足を置き、制度に関するもの、生活支援に関するもの、その他とします。そして、常に福祉現場にかかわりながら研究をすることを重要視します。

授業計画：3年時は、前期はテキストを使用しますが、その他に、学生一人一人が持っている関心領域に関する文献を読破しレポートとしてまとめ発表することによって、問題意識をゼミ生が共有することをねらいとします。後期は施設実習と自らの関心のあるテーマを重ね合わせたレポート報告からはじまり、現場訪問から得られたものと問題意識を絞り込むために、2回目のレポート報告をします。

春休みは、親睦と中間報告のために合宿を予定しています。

4年時は、前期は、各人のテーマにあった現場訪問を実施し、資料収集等に役立てたいと考えています。そして、10月完成を目指して、章立てをしながら論文を完成させていきます。

使用テキスト：寺本晃久その他編著『良い支援？』生活書院

担当教員からのメッセージ

私は主に重度の肢体不自由や重症心身障がいの人たちの生活支援を行ってきました。地域生活支援を始めてからは、その対象が拡大していきました。しかし、すべてに精通しているわけではありません。この1年は、皆さんと一緒に研究を進めていくこととなります。宜しく願います。